

学生確保の見通し等を記載した書類

1 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

① 定員充足の見込み

薬学研究科臨床薬学専攻博士課程では、薬学系大学院における人材養成の方向性及び現在の北海道薬科大学大学院の入学志願者状況、北海道を中心に所在する医療関連機関、北海道薬科大学及び大学院への求人実績や卒業生及び修了生の採用実績がある医療関連機関等を対象とした人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的や卒業者への採用意向に関する調査結果による数値などを踏まえるとともに、北海道内における薬学系大学院の設置状況及び現在の北海道薬科大学の薬学部薬学科の在学生に対する進学需要調査結果による数値などを総合的に勘案したうえで、入学定員を3名としていることから、十分な定員充足を見込むことができるものと考えている。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

ア 北海道内の薬学系学部及び大学院博士課程の設置状況

北海道内における薬学系の学部（6年制）及び薬学系の大学院（博士課程）を設置している大学は、平成29年4月現在、北海道薬科大学、北海道大学、北海道医療大学の3大学で、この3大学の学部（6年制）の入学定員の合計が400人であるのに対して、大学院（博士課程）の入学定員の合計は10人となっており、学部（6年制）の入学定員に比して大学院（博士課程）の入学定員の割合は2.5%となっている。また、最近3年間の北海道薬科大学、北海道大学、北海道医療大学の大学院（博士課程）の定員充足率の平均についてみると、平成26年度は70.0%となっているものの、平成27年度は95.0%、平成28年度は102.5%となっており、安定した定員の充足状況を維持していることから、北海道科学大学の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程を設置した場合においても、十分な定員充足の見通しがあるものと考えられる（資料1：北海道内の薬学系大学・大学院の設置状況並びに定員充足状況）。

イ 既設の北海道薬科大学大学院の入学志願者状況

現在の北海道薬科大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程は平成24

年度に開設され、開設後の平成24年度からの5年間の入学志願者数等の実績については、平成24年度の志願者数は2人（志願倍率0.67倍）、平成25年度の志願者数は1人（志願倍率0.33倍）、平成26年度の志願者数は3人（志願倍率1.0倍）、平成27年度の志願者数は1人（志願倍率0.33倍）、平成28年度の志願者数は3人（志願倍率1.0倍）となっている。今般、設置する北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程では、現在の北海道薬科大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程における教育課程及び教育内容の充実や、今後の臨床施設で活躍している薬剤師ニーズの一層の拡充に対応するため、社会人等の受け入れにも配慮した長期履修制度を導入するなど学習環境の向上を図ることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

ウ 在学生に対する進学需要調査結果

北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から検証することを目的として、現在の北海道薬科大学の薬学部薬学科に在籍している5年次生を対象として、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程における教育研究上の目的及び受験意向や進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、教育研究上の目的に応じた履修モデルの魅力度については、「薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う」薬物治療学履修モデルが77.1%と最も高く、次いで、「ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う」臨床薬物動態学履修モデルが74.5%と高くなっている。

一方、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程への進学意向については、北海道科学大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻博士課程を「受験したいと思う」と回答した者は、有効回答者数191人の14.0%にあたる26人となっており、また「受験したいと思う」と回答した26人の88.5%にあたる23人が北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課

程に「入学したいと思う」と回答している。

なお、大学卒業後に「大学院に進学」と回答した者で、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した者は14人となっている。

このような、北海道薬科大学の薬学部薬学科に在籍している5年次生に限定した調査においても、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程への進学意向がうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる（資料2：大学院薬学研究科進学需要調査（大学生）集計表）。

③ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び大学院の運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、現在の北海道薬科大学大学院の学生納付金（入学金20万円、授業料84万円）及び私立大学の北海道医療大学大学院の学生納付金（入学金20万円、授業料75万円）を参考にしうえて、完成年度における教育研究経費比率や経常経費依存率を見極めつつ、大学及び大学院の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額（入学金20万円、授業料84万円）として設定している。

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

① 学生確保に向けた取組方針

新設研究科の広報活動については、認可申請中であることを考慮し、教育・研究内容等を周知することに努め、設置認可後は試験制度等を含めた総合的な募集広報活動を集中的に行うこととする。

認可申請前は新設研究科設置の目的、趣旨等を現在の北海道薬科大学の薬学部薬学科の在学生へ広報し、認可申請中は新研究科設置の進捗状況に関する情報を継続的に提供し続け、設置認可後は入学試験制度等の周知を積極的に行い、学生確保に努めることとする。

② 学生確保に向けた取組状況

学生確保に向けた取組状況としては、大学案内や研究科の概要（研究テーマ等）をまとめた募集要項を作成し、現在の北海道薬科大学の薬学部薬学科の在学生及

び入学希望者に配付するとともにホームページに掲載し、資料請求者へ郵送する。

研究科の教員は、学部教員が兼務となることから、現在の北海道薬科大学の薬学部薬学科の在学生に対して研究テーマ等を周知し、興味を持つよう取り組むこととする。また、薬学分野のセミナー・学会等において、教員による広報活動を随時行い、これまでの薬学実務実習の受入れ実績のある医療機関等にも情報提供を行うこととしている。

さらに学部対象に実施しているオープンキャンパス等においても進学希望者に対して、薬学研究科臨床薬学専攻博士課程における学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針をはじめとする様々な教育情報について、広報することとしている（資料３：学生確保に向けた具体的な取組内容）。

2 人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

① 薬学研究科臨床薬学専攻博士課程において養成する人材

「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－答申」（平成１７年９月５日 中央教育審議会）では、「大学院は、法制上、研究者養成と高度専門職業人養成の二つの養成機能を中心にその役割を担っているが、今後の知識基盤社会における人材養成の重要性や現在の大学院教育との関係を踏まえると、今後の大学院が担うべき人材養成機能は、①創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成、②高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成、③確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成、④知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成の四つに整理される」としている。一方、「日本の展望=学術からの提言 2010 報告 薬学分野の展望」（平成２２年４月５日 日本学術会議）においては、「６年制学部基礎を置く大学院における養成人材像を考えると、病院・薬局で働く高度な職能を持つ薬剤師の養成に加え、医薬品の研究・開発・情報提供等に従事する研究者や技術者、医薬品承認審査、公衆衛生などの行政従事者、薬学教育に携わる教員等、多様な人材が養成されることになる。医学部・医系大学院において臨床に従事しながら研究ができる医師（physician-scientists）が育成されているのと同様、薬剤師

の養成においても、職能教育にとどまらず、臨床に従事しながら研究ができる、あるいは臨床の経験を生かして他の研究職域で活躍する薬剤師（pharmacist-scientists）を輩出できるよう、実務に密接した研究能力を習得させる教育を行う必要がある。」としている。すなわち、高度に専門的な薬剤師としての業務に従事するために必要な自立した研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことが求められる。

博士課程の学生は、6年制薬学教育を修得して実務能力を身に付けた薬剤師であることから、「薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、各種専門・認定薬剤師を目指す薬剤師、臨床薬学の研究者、治験・臨床開発従事者などの高度な専門的人材及び薬学部学生、大学院薬学研究科学生への教育・研究を担う大学教員、大学における研究者を養成」を設置する薬学研究科臨床薬学専攻の人材養成の目的とする。

また、在宅医療において高度なファーマシューティカル・ケアを実践できる薬剤師、薬物治療に精通した薬剤師、病院における薬剤師業務に精通した薬剤師、遺伝子情報と薬物動態を総合的に理解し、個別化した薬物選択ができる薬剤師、医療薬学・臨床薬学の教育・研究を担当する大学教員を輩出するため、医師、看護師、CRC（Clinical Research Coordinator）などの他の医療関係職種と協働して病態制御、薬物治療、在宅医療、個別化医療、公衆衛生、薬剤疫学等に関する課題で医療薬学・臨床薬学に関する臨床研究を展開することから、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「薬学」とする。

このような背景から、設置する薬学研究科臨床薬学専攻が養成する人材は現在の北海道薬科大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻の教育・研究を引き継ぎ、養成する人材の目的を踏まえ、大学院生に学位を授与するにあたり大学院生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のとおり定めることとする。

<ディプロマ・ポリシー>

臨床薬学専攻では、別に定める修了要件を満たした学生に博士（薬学）の学位を授与し、以下の知識、能力、態度が身についていることを保証します。

1. 臨床薬学・医療薬学に関する豊かな学識とともに、科学的視点をもって最新の薬物療法を統合評価できる応用能力を身に付けている。
2. 地域医療の現状を理解し、地域医療が抱える薬物療法に関する問題を発掘・解決できる優れた研究能力を身に付けている。
3. 臨床現場において指導的な立場で他者と協力し、薬物療法に関する問題の解決に当たることができるマネジメント力、リーダーシップを身に付けている。

薬学研究科臨床薬学専攻は、6年制の薬学部等を母体として設置することから、4年一貫の博士課程として優れた研究能力等を備えた臨床薬剤師の養成を主たる目的とし、その教育内容については、臨床を通じた薬学研究の在り方を中心として、地域医療薬学分野、薬物治療学分野、臨床薬剤学分野、個別化医療薬学分野における高度の専門性を有する薬剤師として活躍するための職業人養成に係る履修モデルを置くこととする。

具体的には、「地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行う」在宅医療薬学履修モデル、「薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う」薬物治療学履修モデルを置くこととしている。

また、「病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う」病院薬剤学履修モデル、「ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う」臨床薬物動態学履修モデルを置くこととしている。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 既設研究科の求人状況及び就職状況

現在の北海道薬科大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程は平成24年度に開設され、第一期生が修了した平成27年度の求人件数の実績については、求人件数52件（病院21件、薬局16件、製薬・化学企業・医薬品卸売業等15件）となっており、就職希望者2人に対して就職者数2人となっている。

このことは、現在の北海道薬科大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを示しているものであり、今般、設置する北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程では、現在の北海道薬科大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程における教育課程や教育内容をより充実して設置することから、修了後の進路は十分な見通しがあるものと考えられる。

② 薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の社会的要請に関する調査結果

北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の設置計画を進めるうえで、薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることについて検証するために、北海道を中心とした病院や薬局をはじめとする医療に関連する事業所等を対象として、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程における教育研究上の目的と養成する人材や設置の必要性に関するアンケート調査を実施した。

その結果、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に則した履修モデルに対する魅力度については、4モデル中3モデルで8割を超えており、中でも、「病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う」病院薬剤学履修モデルについては、有効回答者数の85.3%が「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答している。また、「薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの

病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う」薬物治療学履修モデル、「ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う」臨床薬物動態学履修モデルについては、有効回答者数の80.3%が「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答している。

さらに、「地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行う」在宅医療薬学履修モデルにおいても、有効回答者数の78.7%が「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答している。

一方、北海道科学大学大学院に薬学研究科臨床薬学専攻博士課程を設置に係る社会的な必要性については、有効回答件数60件の83.3%にあたる50事業所等が「必要だと思う」と回答していることから、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであるといえる（資料4：大学院薬学研究科人材需要調査（事業所）集計表）。

③ 薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の修了生の採用意向に関する調査結果

北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程において養成する人材に対する修了後の進路について検証するために、北海道を中心とした病院や薬局をはじめとする医療に関連する事業所等を対象として、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の修了生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の修了生に対する採用意向については、有効回答件数59件の71.2%にあたる42事業所等が「採用したいと思う」と回答しており、また、「採用したい」と回答した42事業所等の毎年の採用想定人数の合計は46名となっており、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程で学んだ修了生の採用に積極的な意向を示している。

このような北海道を中心とした病院や薬局をはじめとする医療に関連する事業

所等に限定した調査結果においても、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程で学んだ修了生への採用意向の高さがうかがえることから、北海道科学大学大学院の薬学研究科臨床薬学専攻博士課程の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであり、修了後の進路については、十分な見通しがあるものと考えられる（資料4：大学院薬学研究科人材需要調査（事業所）集計表）。

(資料 1) 北海道内の薬学系大学・大学院の
設置状況並びに定員充足状況

北海道内の薬学系大学・大学院の設置状況並びに定員充足状況

1. 北海道内の薬学系大学の設置状況・定員充足状況

設置 区分	大学	学部	学科	入学定員 ※1				入学者数 ※1				入学定員充足率			
				H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
国立	北海道大学	薬	薬	30	30	30	30	25	24	24	23	83.3	80.0	80.0	76.7
私立	北海道医療大学	薬	薬	160	160	160	160	186	176	175	169	116.3	110.0	109.4	105.6
私立	北海道薬科大学	薬	薬	210	210	210	210	229	232	226	210	109.0	110.5	107.6	100.0
国私立合計				400	400	400	400	440	432	425	402	110.0	108.0	106.3	100.5
私立合計				370	370	370	370	415	408	401	379	112.2	110.3	108.4	102.4

設置 区分	大学	学部	学科	募集人員 ※3				志願者数 ※2、※3				志願倍率			
				H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度
国立	北海道大学	薬	薬	24	24	24	24	298	280	271	231	12.4	11.7	11.3	9.6
私立	北海道医療大学	薬	薬	135	135	135	132	1,018	1,052	1,007	847	7.5	7.8	7.5	6.4
私立	北海道薬科大学	薬	薬	127	127	117	117	928	994	1,134	929	7.3	7.8	9.7	7.9
国私立合計				286	286	276	273	2,244	2,326	2,412	2,007	7.8	8.1	8.7	7.4
私立合計				262	262	252	249	1,946	2,046	2,141	1,776	7.4	7.8	8.5	7.1

※1 入学定員、入学者数は、各大学ホームページを参照して記載。

※2 志願者数は、(株)ベネッセコーポレーションのデータを使用して記載。

※3 募集人員及び志願者数には、指定校推薦・系列校推薦・同窓生子女推薦の数値が含まれていない。

※北海道大学の総合系入試を除いて集計。

2. 北海道内の薬学系大学院の設置状況・定員充足状況

北海道内における薬学系大学院の入学定員充足状況を示す算出データは、入学者数の一部が薬学系以外の専攻と合算されていることから、3つの大学院の収容定員を合算した充足状況としている。

設置 区分	大学院名	研究科	専攻	入学 定員	H26 入学者数	H27 入学者数	H28 入学者数	収容 定員	H26.5月 在籍者数	H27.5月 在籍者数	H28.5月 在籍者数
国立	北海道大学大学院	生命科学 学院	臨床薬 学	4	35 ※1	29 ※1	31 ※1	16	14	20	24
私立	北海道医療大学大学院	薬学	薬学	3	4	4	0	12	9	12	11
私立	北海道薬科大学大学院	薬学	臨床薬 学	3	2	1	3	12	5	6	6
国私立合計				10	— ※2	— ※2	— ※2	40	28	38	41
				入学定員 充足率	— ※2	— ※2	— ※2	収容定員 充足率	70.0%	95.0%	102.5%

※1 北海道大学大学院生命科学院臨床薬学専攻の入学者数には、「生命科学専攻」の入学者が含まれている。

※2 入学者数計と入学定員充足率は、北海道大学大学院生命科学院の入学者数が合算のため算出不可。

(資料 2) 大学院薬学研究科進学需要調査 (大学生)
集計表

- 大学院薬学研究科進学需要調査 (大学生)
集計表
- 北海道科学大学大学院薬学研究科
臨床薬学専攻博士課程 (仮称、設置構想中)
に関するアンケート
- 薬学研究科概要説明資料

大学院薬学研究科進学需要調査(大学生)集計表

このアンケートは北海道科学大学のアンケート調査項目のうち、受験意向に関連した質問の一部を抜粋したものである。

Q3.北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)には、以下のような履修モデルのコースがあります。それぞれの履修モデルについて、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号に○をつけてください。)

A. 在宅医療薬学履修モデル

評価	有効 数 回答 件	魅力 を感じ る・計	魅力 を感じ る と ても 魅力	魅力 ある 程度 を感じる	あまり 魅力 を感じ ない	魅力 を感じ ない 魅力	無 回 答
実数	192	125	34	91	67	50	17
%	100.0	65.1	17.7	47.4	26.0	8.9	—

B. 薬物治療学履修モデル

評価	有効 数 回答 件	魅力 を感じ る・計	魅力 を感じ る と ても 魅力	魅力 ある 程度 を感じる	あまり 魅力 を感じ ない	魅力 を感じ ない 魅力	無 回 答
実数	192	148	43	105	44	36	8
%	100.0	77.1	22.4	54.7	18.8	4.2	—

C. 病院薬剤学履修モデル

評価	有効 数 回答 件	魅力 を感じ る・計	魅力 を感じ る と ても 魅力	魅力 ある 程度 を感じる	あまり 魅力 を感じ ない	魅力 を感じ ない 魅力	無 回 答
実数	192	137	45	92	55	44	11
%	100.0	71.4	23.4	47.9	22.9	5.7	—

D. 臨床薬物動態学履修モデル

評価	有効 数 回答 件	魅力 を感じ る・計	魅力 を感じ る と ても 魅力	魅力 ある 程度 を感じる	あまり 魅力 を感じ ない	魅力 を感じ ない 魅力	無 回 答
実数	192	143	45	98	49	41	8
%	100.0	74.5	23.4	51.0	21.4	4.2	—

Q4.北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)を受験したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号に○をつけてください(1つだけ)

評価	有効 数 回答 件	受 験 し た い	受 験 し た い	無 回 答	調 査 数
実数	191	26	165	1	192
%	100.0	14.0	86.0	—	—

Q5.あなたは、北海道科学大学「薬学部 薬学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近い方をお選びください。(1つだけ)

評価	有効 数 回答 件	入 学 し た い	入 学 し た い	無 回 答	調 査 数
実数	26	23	3	0	26
%	100.0	88.5	11.5	—	—

北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程
(仮称、設置構想中)に関するアンケート

※ アンケートや別添の概要説明資料に記載されている北海道科学大学大学院に関する事項は、すべて予定であり内容は変わる可能性があります。

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (該当に○)	1. 男性 2. 女性	学年 (該当に○)	1. 5年生 2. 6年生 3. その他
--------------	------------------	--------------	--------------------------------

◆卒業後の進路などについてお聞きます。

7. 就職はしない／まだ決めていない

◆北海道科学大学大学院についてお聞きます。

北海道科学大学大学院では、平成30年(2018年)4月に、
新しく「薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」(仮称)を設置することを構想しています。

※ 北海道薬科大学大学院が現在の教育内容を継承し、北海道科学大学大学院と統合することで
新たに北海道科学大学大学院「薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」(仮称、設置構想中)になります。

Q3. 北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)には、
以下のような履修モデルのコースがあります。

それぞれの履修モデルについて、あなたはどの程度魅力を感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号に○をつけてください。)

			とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	〇〇〇〇教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
A.	■在宅医療薬学コース 広大な面積を有し、人口密度の低い北海道においては、医師、薬剤師、看護師など医療従事者の不足による医療過疎が深刻な社会問題である。本学が力点を置いている地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
B.	■薬物治療学コース 薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
C.	■病院薬剤学コース 病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
D.	■臨床薬物動態学コース 遺伝子解析技術の進歩により、個々の患者遺伝子情報に基づいて最適な治療計画が可能になってきている。ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う。	→	1	2	3	4

Q4. あなたは、北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)を受験したいと思いますか。

あなたの気持ちに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 受験したいと思う 2. 受験したいと思わない

Q5. あなたは、北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)を受験したと仮定して合格したら、入学したいと思いますか。

あなたの気持ちに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 入学したいと思う 2. 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

※この資料をご覧ください、添付のアンケートにお答えください

北海道科学大学大学院では、平成30年4月に 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程（仮称、設置構想中）の 開設を予定しています。

※この資料に記載されている内容はすべて予定であり、変更になる可能性があります。

北海道薬科大学大学院の現在の教育内容を継承し、北海道科学大学大学院と統合することで、新たに北海道科学大学大学院「薬学研究科臨床薬学専攻 博士課程」を平成30年（2018年）4月に開設を予定しています。

【設置の目的】

薬学研究科では、薬剤師にさらに高度な教育と研究を通じた広い知識と研究能力を身に付け地域に輩出することで北海道の医療水準を高めること、また、現在、地域において活躍している薬剤師の研究支援を行うことにより、薬学の発展に寄与できる人材育成することを目的としています。

【学びの特色】

① 臨床実地研修

1年後期から4年前期の間の半年間に医療施設において、最新の医療と薬剤師の現状について実地研修を行い、実際に行われている薬物療法の問題点を医療施設に勤務する薬剤師および指導教員とともに考え、課題研究の進展に活用します。

② 4つの履修モデルコース

臨床実地研修とともに4つの履修モデルコースの中から研究領域を選択し、エビデンス構築のための創造的研究の企画能力、推進能力、研究成果の論理的な表現能力、外国語での論文をまとめる能力を身に付けます。

＜履修モデルコース＞



③ 研究・履修指導

研修指導では入学前に各分野が提示する多くの臨床的課題の中からテーマを選び、指導教員を決定します。選択したテーマについては、指導教員だけではなく、その分野の全ての教員が関わる集団指導体制によって研究を遂行します。また、各自の興味と関心、将来の進路の目標に応じた科目履修ができるよう、履修ガイダンスを行うとともに、個別の履修相談を行います。

④ 学習環境

学生と大学が双方向で情報を共有できる「モバイルキャンパス構想」による環境整備に力を入れています。全ての学生がノートパソコンを所有し、学生生活のあらゆる場面で利用することで、多元的に情報メディアを使うことができます。

■薬学研究科 臨床薬学専攻(博士課程)

修 業 年 限	4年	入学定員	3名	学位又は称号	博士(薬学)
養成する人材	薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、各種専門・認定薬剤師を目指す薬剤師、臨床薬学の研究者、治験・臨床開発従事者などの高度な専門的人材および薬学部学生、大学院薬学研究科学生への教育・研究を担う大学教員、大学における研究者を養成します。				
履 修 モデル	■在宅医療薬学コース 広大な面積を有し、人口密度の低い北海道においては、医師、薬剤師、看護師など医療従事者の不足による医療過疎が深刻な社会問題である。本学が力点を置いている地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行う。				
	■薬物治療学コース 薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。				
	■病院薬剤学コース 病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。				
	■臨床薬物動態学コース 遺伝子解析技術の進歩により、個々の患者遺伝子情報に基づいて最適な治療計画が可能になってきている。ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う。				
開設予定科目	専修科目	在宅医療薬学特論、在宅医療薬学特論演習 公衆衛生薬学特論、公衆衛生薬学特論演習 薬物治療学特論、薬物治療学特論演習 情報機能薬学特論、情報機能薬学特論演習 病態制御医薬品学特論、病態制御医薬品学特論演習 病院薬剤学特論、病院薬剤学特論演習 病態制御薬剤学特論、病態制御薬剤学特論演習 遺伝子解析学特論、遺伝子解析学特論演習 臨床薬物動態学特論、臨床薬物動態学特論演習			
	関連科目	研究計画法概論、臨床実地研修			
	共通科目	薬学研究と倫理、先端医療と薬学、現代社会と薬学、研究表現技法			
	課題研究	課題研究			

【学 費】

入学金 200,000 円 年間学費 840,000 円

※本学学部を卒業したものが入学するときは入学金が免除されます

【アクセス】

JR手稲駅北口よりJRバスで9分。タクシーで約5分。徒歩では約25分を要します。

(資料 3) 学生確保に向けた具体的な取組内容

学生確保に向けた具体的な取組内容

1 学生募集要項等の印刷物

専攻の概要（研究分野・領域）をまとめた募集要項を作成し、現在の北海道薬科大学の薬学部薬学科の在学生及び入学希望者に配付するとともに、北海道薬科大学及び本学ホームページに掲載し、資料請求者へ郵送する。また、薬学系の他大学へ要項を送付する。

2 各専攻教員による広報活動

薬学分野におけるセミナー、学会等において、教員による広報活動を随時行う。また、これまで実習生の受入や実績のある医療機関等にも積極的な情報提供を行う。

3 在学生に対する広報活動

新研究科の教員は、学部教員が兼務となることから、在学生に対して研究テーマを周知し、興味を持つよう取り組む。また、卒業生に対しては既に入学金免除制度を導入しており、入学の便宜を図っている。

4 保護者に対する広報活動

北海道薬科大学で行う保護者会（総会）及び父母懇談会において、大学院進学について説明を行う。

5 同窓会の定例行事（幹事会・総会等）における新研究科の説明及び広報活動

新研究科設置の紹介及び社会人に対して、長期履修制度があることを説明する。

6 その他

設置認可後の取り組みとしては、前項に掲げた取り組みをさらに拡大し、学生募集に関する情報提供を積極的に行うこととする。入試については、一般入試を実施する予定であり、大学教職員が一丸となって学生確保に努める。

(資料4) 大学院薬学研究科人材需要調査（事業所）
集計表

- 大学院薬学研究科人材需要調査（事業所）
集計表
- 「北海道科学大学薬学部薬学科」、
「北海道科学大学大学院薬学研究科
臨床薬学専攻博士課程」（いずれも仮称、
設置構想中）に関するアンケート
- 薬学研究科概要説明資料

大学院薬学研究科人材需要調査(事業所)集計表

このアンケートは北海道科学大学のアンケート調査項目のうち、採用意向に関連した科目の一部を抜粋したものである。

Q12.北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)には、以下のような履修モデルのコースがあります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、それぞれのコースを修了した学生はどの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号に○をつけてください。)

A. 在宅医療薬学履修モデル

評価	有効回答件数	魅力を感じる・計	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
実数	61	48	22	26	12	1
%	100.0	78.7	36.1	42.6	19.7	1.6

B. 薬物治療学履修モデル

評価	有効回答件数	魅力を感じる・計	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
実数	61	49	24	25	12	0
%	100.0	80.3	39.3	41.0	19.7	0.0

C. 病院薬剤学履修モデル

評価	有効回答件数	魅力を感じる・計	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
実数	61	52	29	23	8	1
%	100.0	85.3	47.5	37.7	13.1	1.6

D. 臨床薬物動態学履修モデル

評価	有効回答件数	魅力を感じる・計	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
実数	61	49	15	34	11	1
%	100.0	80.3	24.6	55.7	18.1	1.6

Q13.貴社・貴団体(ご回答者)は、北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)は日本の社会にとって必要だと思われますか。現時点でのあなたご自身のお考えに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

評価	有効回答件数	必要だと思う	必要だと思わない	無回答	調査数
実数	60	50	10	1	61
%	100.0	83.3	16.7	—	—

Q14.貴社・貴団体(ご回答者様)は、北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)を修了した学生を採用したいと思われますか。現時点でのあなたご自身のお考えに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

属性	有効回答件数	採用したいと思う	採用したくないと思う	無回答	調査数
実数	59	42	17	2	61
%	100.0	71.2	28.8	—	—

Q15.Q14で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、毎年、何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えにあてはまる番号に○をつけてください。(1つだけ)

※毎年の採用想定人数・計「4名以上」=4名、「人数未確定」=1名を代入し合計値を算出

採用予定者数	調査数	1名	2名	3名	人数は未確定	無回答	毎年の採用想定人数・計※
実数	42	13	1	2	25	1	46
%	100.0	31.0	2.4	4.8	59.5	—	

「北海道科学大学 薬学部 薬学科」、 「北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」 (いずれも仮称、設置構想中)に関するアンケート

北海道科学大学(大学院)では、平成30年(2018年)4月より、「薬学部 薬学科」、「薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」(いずれも仮称)を新設することを構想しています。

※ 北海道薬科大学(大学院)の現在の教育内容を継承し、北海道科学大学(大学院)と統合することで新たに「北海道科学大学 薬学部 薬学科」、「北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」(いずれも仮称、設置構想中)になります。

このアンケートは、人事採用ご担当者の皆様から意見をお伺いし、教育内容をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ アンケートや別添の資料(リーフレット・概要説明資料)に記載されている北海道科学大学(大学院)に関する事項は、すべて予定であり内容は変わる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をご回答ください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ← (該当に○)

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 病院 | 2. 診療所 |
| 3. 薬局・ドラッグストア | 4. 製薬業 |
| 5. 医療品卸業 | 6. CRO・SMO(医薬品開発業務) |
| 7. 官公庁などの公的機関 | 8. その他(具体的に:) |

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員・職員数)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------------|----------------|
| 1. 50名未満 | 2. 50名～100名未満 | 3. 100名～500名未満 |
| 4. 500名～1,000名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員・職員の採用数について、お教えてください。

過去3か年 平均

名程度

次のページへ続く→

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|--------|-----------|--------|
| 1. 増やす | 2. 昨年度並み | 3. 減らす |
| 4. 未定 | 5. 採用予定なし | |

Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学問を学んだ人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 薬学 | 2. 医・歯学 |
| 3. 看護学 | 4. リハビリテーション学(理学療法学など) |
| 5. 医療技術学(診療放射線学など) | 6. 保健学、体育・健康科学 |
| 7. 工学 | 8. その他理系 |
| 9. 社会学 | 10. その他文系 |
| 11. 学部や学問系統にはこだわらない | |

■「北海道科学大学 薬学部 薬学科」についてうかがいます。

北海道科学大学では、平成30年(2018年)4月に、
新しく「薬学部 薬学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ここからは、アンケートに同封している資料(リーフレット)をご覧くださいの上でお答えください※

Q8. 北海道科学大学 薬学部 薬学科(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、それぞれの特色はどの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号に○をつけてください。)

			とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	〇〇を養成します。	→	1	2	3	4
A.	地域社会の健康を支える薬剤師の養成 患者のQOL向上・改善のための「ファーマシューティカル・ケア」を実践でき、地域社会の健康を支える薬剤師を養成します。	→	1	2	3	4
B.	しっかりとした基礎固め 1年次に化学、生物、物理、数学などの基礎科目について、高等学校で未履修の学生や苦手としている学生を対象に補習を行い、基礎となる知識をしっかりと身につけます。	→	1	2	3	4
C.	実務に強い教員が充実 実務に直結した教育を幅広く行うため、薬剤師としての実務経験を持つ教員が指導します。教員が現場で得た生きた知識・経験を、講義や実習を通して学びます。	→	1	2	3	4
D.	実践型のカリキュラム 知識・技能・態度の教育を相互に関連づけたカリキュラムで、実践的能力を高めます。これからの薬剤師に求められる問題発掘・解決能力を身につけた人材を養成します。	→	1	2	3	4
E.	高度で実践的な専門教育のための学修施設・設備 模擬薬局やシミュレーター室、無菌注射剤調製室など、高い実践力を養成する実習室がそろっています。	→	1	2	3	4

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、

北海道科学大学 薬学部 薬学科(仮称、設置構想中)は日本の社会にとって必要だと思いますか。

現時点でのあなたご自身のお考えに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 必要だと思う

2. 必要だと思わない

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)は、

北海道科学大学 薬学部 薬学科(仮称、設置構想中)を卒業した学生を採用したいと思いませんか。

現時点でのあなたご自身のお考えに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 採用したいと思う

2. 採用したいと思わない

Q11. Q10で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年、何名程度の採用を想定されますか。

現時点でのあなたご自身のお考えにあてはまる番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 1名

2. 2名

3. 3名

4. 4名以上

5. 人数は未確定

次のページへ続く→

■「北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」についてうかがいます。

北海道科学大学大学院では、平成30年(2018年)4月に、
新しく「薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程」(仮称)を設置することを構想しています。
※ここからは、アンケートに同封している資料(概要説明資料)をご覧ください※

Q12. 北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)には、

以下のような履修モデルのコースがあります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、

それぞれのコースを修了した学生はどの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号に○をつけてください。)

			とても 魅力を感じ	ある程度 魅力を感じ	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
例.	〇〇〇〇教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
A.	■在宅医療薬学コース 広大な面積を有し、人口密度の低い北海道においては、医師、薬剤師、看護師など医療従事者の不足による医療過疎が深刻な社会問題である。本学が力点を置いている地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
B.	■薬物治療学コース 薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
C.	■病院薬剤学コース 病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。	→	1	2	3	4
D.	■臨床薬物動態学コース 遺伝子解析技術の進歩により、個々の患者遺伝子情報に基づいて最適な治療計画が可能になってきている。ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う。	→	1	2	3	4

Q13. 貴社・貴団体(ご回答者)は、

北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)は日本の社会にとって必要だと思われますか。現時点でのあなたご自身のお考えに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 必要だと思う

2. 必要だと思わない

Q14. 貴社・貴団体(ご回答者)は、

北海道科学大学大学院 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程(仮称、設置構想中)を修了した学生を採用したいと思われますか。現時点でのあなたご自身のお考えに近い方の番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 採用したいと思う

2. 採用したいと思わない

Q15. Q14で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年、何名程度の採用を想定されますか。

現時点でのあなたご自身のお考えにあてはまる番号に○をつけてください。(1つだけ)

1. 1名

2. 2名

3. 3名

4. 人数は未確定

～質問は以上です。ご協力ありがとうございました。～

※この資料をご覧ください、添付のアンケートにお答えください

北海道科学大学大学院では、平成30年4月に 薬学研究科 臨床薬学専攻 博士課程（仮称、設置構想中）の 開設を予定しています。

※この資料に記載されている内容はすべて予定であり、変更になる可能性があります。

北海道薬科大学大学院の現在の教育内容を継承し、北海道科学大学大学院と統合することで、新たに北海道科学大学大学院「薬学研究科臨床薬学専攻 博士課程」を平成30年（2018年）4月に開設を予定しています。

【設置の目的】

薬学研究科では、薬剤師にさらに高度な教育と研究を通した広い知識と研究能力を身に付け地域に輩出することで北海道の医療水準を高めること、また、現在、地域において活躍している薬剤師の研究支援を行うことにより、薬学の発展に寄与できる人材育成することを目的としています。

【学びの特色】

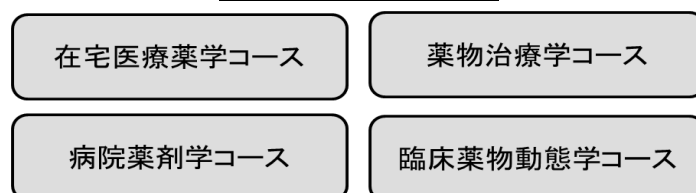
① 臨床実地研修

1年後期から4年前期の間の半年間に医療施設において、最新の医療と薬剤師の現状について実地研修を行い、実際に行われている薬物療法の問題点を医療施設に勤務する薬剤師および指導教員とともに考え、課題研究の進展に活用します。

② 4つの履修モデルコース

臨床実地研修とともに4つの履修モデルコースの中から研究領域を選択し、エビデンス構築のための創造的研究の企画能力、推進能力、研究成果の論理的な表現能力、外国語での論文をまとめる能力を身に付けます。

＜履修モデルコース＞



③ 研究・履修指導

研修指導では入学前に各分野が提示する多くの臨床的課題の中からテーマを選び、指導教員を決定します。選択したテーマについては、指導教員だけではなく、その分野の全ての教員が関わる集団指導体制によって研究を遂行します。また、各自の興味と関心、将来の進路の目標に応じた科目履修ができるよう、履修ガイダンスを行うとともに、個別の履修相談を行います。

④ 学習環境

学生と大学が双方向で情報を共有できる「モバイルキャンパス構想」による環境整備に力を入れています。全ての学生がノートパソコンを所有し、学生生活のあらゆる場面で利用することで、多元的に情報メディアを使うことができます。

■薬学研究科 臨床薬学専攻(博士課程)

修 業 年 限	4年	入学定員	3名	学位又は称号	博士(薬学)
養成する人材	薬剤師としての知識を基礎に、実務に直結する研究課題を自らが発見・解決する高度な専門職業人として、科学的思考・研究マインド・研究能力を身に付け、地域医療の担い手として、各種専門・認定薬剤師を目指す薬剤師、臨床薬学の研究者、治験・臨床開発従事者などの高度な専門的人材および薬学部学生、大学院薬学研究科学生への教育・研究を担う大学教員、大学における研究者を養成します。				
履 修 モデル	■在宅医療薬学コース 広大な面積を有し、人口密度の低い北海道においては、医師、薬剤師、看護師など医療従事者の不足による医療過疎が深刻な社会問題である。本学が力点を置いている地域社会、特に医療過疎地において高度の医療に対応できる練度の高い薬剤師を養成し、薬局薬剤師による地域住民の主体的な健康の維持・増進の支援、在宅医療、地域の公衆衛生改善を推進するための課題について教育・研究を行う。				
	■薬物治療学コース 薬物の臨床効果を適正に評価するための課題について、薬理学・生化学・生理学・医薬化学を基盤に、細胞・分子レベルでの病態・薬効薬理とともに医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。				
	■病院薬剤学コース 病院治療を受ける患者に用いる薬物の適正使用に関わる臨床的課題について、薬剤学・薬物動態学・調剤学・製剤学の知識を基盤に、TDM、製剤設計を通して医薬品の適正使用に関する教育・研究を行う。				
	■臨床薬物動態学コース 遺伝子解析技術の進歩により、個々の患者遺伝子情報に基づいて最適な治療計画が可能になってきている。ゲノム情報学・遺伝子解析学・医療情報学の知識を基盤に、治療薬の有効性・安全性・投与計画の予測情報を蓄積し、確度の高いテーラーメイド医療の実践に繋がる臨床的課題に関する教育・研究を行う。				
開設予定科目	専修科目	在宅医療薬学特論、在宅医療薬学特論演習 公衆衛生薬学特論、公衆衛生薬学特論演習 薬物治療学特論、薬物治療学特論演習 情報機能薬学特論、情報機能薬学特論演習 病態制御医薬品学特論、病態制御医薬品学特論演習 病院薬剤学特論、病院薬剤学特論演習 病態制御薬剤学特論、病態制御薬剤学特論演習 遺伝子解析学特論、遺伝子解析学特論演習 臨床薬物動態学特論、臨床薬物動態学特論演習			
	関連科目	研究計画法概論、臨床実地研修			
	共通科目	薬学研究と倫理、先端医療と薬学、現代社会と薬学、研究表現技法			
	課題研究	課題研究			

【学 費】

入学金 200,000 円 年間学費 840,000 円

※本学学部を卒業したものが入学するときは入学金が免除されます

【アクセス】

JR手稲駅北口よりJRバスで9分。タクシーで約5分。徒歩では約25分を要します。